

作成日：2013 年 09 月 18 日

改訂日：2025 年 05 月 22 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

1. 1 製品特定名 :
ROD, PLT-PPS (G40NC) (G40BK) [丸棒、板]
1. 2 製品の推奨用途と使用上の制限
 - (1) 推奨用途
電気・電子の製造装置、工業用途の装置部品用材料など
 - (2) 使用上の制限
医療用途、体内埋め込み用途には使用しないこと。
食品接触用途に使用される場合は、その具体的用途および使用方法について、必ず事前にご相談下さい。
1. 3 供給者の詳細
 - (1) 会社名 : 東レプラスチック精工株式会社
 - (2) 住所 : 〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町4丁目6番7号 日本橋日銀通りビル3階
 - (3) 担当部署 : 品質保証部
 - (4) 電話番号・FAX番号 :

東京押出版売課	TEL:03-3241-6816	FAX:03-3270-5247
大阪押出版売課	TEL:06-6443-9296	FAX:06-6448-0372
名古屋押出版売課	TEL:052-581-1516	FAX:052-581-1839
海外押出版売課	TEL:03-3241-6816	FAX:03-3270-5247

2. 危険有害性の要約

2. 1 化学物質または混合物の GHS 分類
本製品は、成形品（アーティクル）であり、GHS 分類の対象外です。
2. 2 GHS ラベル要素
対象外
2. 3 GHS 分類に該当しない他の危険有害性
この樹脂の乾燥および溶融加工時に際して有害ガスが少量放出され、目、鼻、喉が刺激されることがあります。これらの熱処理中は適切な局所排気を行ってください。
気分が悪い時は医師の診断を受けて下さい。
この樹脂が床にこぼれたら、滑らないようにすぐに清掃して下さい。
荷崩れの起こる可能性がありますので、製品の積み上げ方にご留意下さい。
2. 4 重要な徴候および想定される非常事態の概要
特になし

3. 組成、成分情報

3. 1 化学物質・混合物の区分 : 成形品（アーティクル）
3. 2 化学名（一般名） : ポリフェニレンサルファイド
3. 3 別名（通称、略称） : ポリフェニレンサルファイド（PPS）
3. 4 組成・成分情報
 - (1) 主成分

化学名 : ポリフェニレンサルファイド
含有量 : (NC) $\geq 52\%$ 、(BK) $\geq 51.5\%$
CAS No. : 26125-40-6
官報公示整理番号(化審法・労安法) : 7-1143

(2) その他成分1

化学名 : ガラス繊維
含有量 : 40%

(3) その他成分2 (BKのみに含有)

化学名 : カーボンブラック
含有量 : $\leq 0.5\%$

(4) その他成分3

化学名 : その他
含有量 : $\leq 8\%$

4. 応急措置

4.1 必要な応急措置の説明

- (1) 吸入した場合 : 通常では該当しませんが、熱分解による発生ガスを吸入した場合は、直ちに新鮮な空気のところへ移動し、回復を待って下さい。回復しない場合には、医師の診断を受けて下さい。サンディング、研磨あるいは切断等の加工時に発生する粉塵を大量に吸入したことによって、咳や胸苦しさ等の呼吸器系の症状が生じた場合には、直ちに空気の清浄な場所へ移動して下さい。呼吸困難の場合には酸素を与え、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- (2) 皮膚に付着した場合 : 粉塵が付着した場合には石鹸と流水で十分に洗い流して下さい。高温樹脂が付着した場合には、直ちに清浄な水で冷却して下さい。皮膚に付着した場合は無理に剥がさず、十分に冷却させてから速やかに医師の診断を受けて下さい。
- (3) 眼に入った場合 : 速やかに流水にて15分間以上の洗浄を行って下さい。眼をこすらないで下さい。洗眼は瞼を指で開いて行なって下さい。刺激等の異常が認められる場合には眼科医の診断を受けて下さい。
- (4) 飲み込んだ場合 : できるだけ吐き出し、不快感が残るようであれば、医師の診断を受けてください

4.2 最も重要な急性症状および遅発性症状

特になし

4.3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

高温物を除去する場合は保護手袋を着用して下さい。

5. 火災時の措置

5.1 適切な消化剤および使ってはならない消化剤

- (1) 適切な消火剤 : 水、泡沫消火剤(エアフォーム) 粉末消火剤、炭酸ガス
(2) 使ってはならない消火剤 : 特になし

5.2 化学品から生じる特有の危険性

火災および／または爆発の場合に、フュームを吸入しないこと。不完全燃焼すると炭酸ガスと水の他に一酸化炭素、硫黄化合物の有害なガスを発生するため注意を要

します。

5. 3 特有の消化方法

水をかけて消火するのが良い。一般の火災と同じ消火法を用いて下さい。

加工機には水をかけないようにして下さい。

5. 4 消火を行う者の保護

消火作業従事者は必ず呼吸保護具と適切な保護具を着用して下さい。

6. 漏出時の措置

6. 1 人体に対する注意事項、保護具、および緊急時措置

機械加工時の切屑や切粉を床にこぼした場合は、転倒の恐れがあるので、ほうきや掃除機等で全量回収して下さい。

(廃棄方法は廃棄上の注意に従って行なう)。

6. 2 環境に対する注意事項

細かい切屑や切粉は海洋生物、鳥類が摂取することを防止するために、全て回収して下さい。

6. 3 封じ込みと洗浄のための方法及び機材

掃き集めて、容器に回収したのち廃棄まで保管してください。粉塵が飛散しないようにして下さい。

6. 4 二次災害の防止策

付近の着火源となるものを取除いて下さい。

7. 取扱い及び保管上の注意

7. 1 安全な取り扱いのための注意事項

(1) 技術的な対策

A. 取扱者の暴露防止 :

サンディング、研磨あるいは切断等の加工時には、換気を行い、粉塵の吸入を避けるために、適切な呼吸保護具を着用して下さい。

機械加工時、および熱処理時にはガスおよびフュームを吸入しないようにして下さい。ガス及びフュームの吸入を避けるために、適切な呼吸保護具を着用して下さい。

作業後には、手や顔の洗浄やうがいを行なって下さい。

作業着は常に清浄なものを着用し、粉塵が付着した衣類は再使用前に洗濯して下さい。

機械加工時には切屑、切粉が目に入るのを防止するために、保護眼鏡を着用して下さい。また一般に機械加工のときに推奨されている保護具を着用して作業して下さい。

B. 火災・爆発の防止 :

常温で引火、爆発の恐れはありませんが、近くで火気をみだりに使用しないで下さい。

(2) 局所換気・全体換気 :

加工時に発生するガスおよびフュームを吸入しないで下さい。

加熱時に発生するガスを排出するために有効な局所排気装置を設置して下さい。

(3) 安全取扱注意事項 :

A. 取扱い1 :

製品を運搬する時は滑り易いので滑り止めの付いた手袋を着用し安全靴を必ず履いて下さい。

①製品を一度に多量運搬する時には重量負荷を低減させる目的で、できる

だけ助力装置を使用して下さい。

②製品を投げたり、落下させたりすると割れて飛散する可能性がありますので、丁寧に取扱い願います。

③製品のエッジ部で手を切り怪我をする恐れがありますので、滑り止めの付いた手袋を着用して下さい。

B. 注意事項 1 :

機械加工時、加工速度を極端に早くすると、製品が割れて飛散したり、加工面が溶融したりする可能性がありますので適切な条件で加工して下さい。もし溶融した場合は直接触れないで下さい。

(4) 適切な衛生対策 :

取扱い後は、手洗い、洗顔、うがいを十分に行なって下さい。

的確な工業衛生管理規則に則った換気及び清掃を実施して下さい。

作業着は再使用の前に洗濯して下さい。

7. 2 混触危険性を含む、安全な保管条件

(1) 技術的な対策 : 特に必要なし

(2) 適切な保管条件 : 直射日光の当たらない、熱、発火源から離れた場所で保管して下さい。

製品を立てかけて保管すると反りが発生するため、棚に水平に保管して下さい。市町村条例に従って取り扱って下さい。

(3) 避けるべき保管条件 : 直射日光の当たらない、熱、発火源から離れた場所で保管して下さい。

(4) 安全な容器包装材料 : 特に必要なし

8. 暴露防止及び保護措置

8. 1 管理パラメーター

(1) 管理濃度 : 現在ありません。

(2) 許容濃度 :

OSHA (労働安全衛生局) / 1985年

不活性粉の最大許容濃度 15mg/m³

不活性粉の最大許容濃度 (呼吸) 5mg/m³

ACGIH (米国政府産業衛生専門官会議) / 1992~1993年

粉の限界値 TWA 10mg/m³

(3) DNEL (導出無影響量) : 情報なし

(4) PNEC (予測無影響濃度) : 情報なし

8. 2 適切な設備対策

溶融時に発生するガスや、加工時に発生する粉塵で作業場が汚染されないように、局所廃棄および全体換気を適切に行って下さい。

粉塵を扱う場合は、粉塵爆発対策をした密閉容器を使用して下さい。

8. 3 個人保護具

(1) 呼吸器用の保護具 : 粉体の場合は防塵マスク、ガスの場合は有機ガスマスク、機械加工、サンディング等の粉塵の発生する作業のときは、防塵マスクを着用して下さい。

(2) 手の保護具 : 通常室温で取り扱う場合は、清潔な皮手袋等を着用する。
高温の樹脂を取り扱う場合、取り扱う温度に適した耐熱手袋を着用する。

切削作業や鋭角な成形品を取り扱う場合、耐切削手袋を着用する。

(3) 眼の保護具 : 保護眼鏡または安全ゴーグルを着用すること。

- (4) 皮膚及び身体の保護具 : 溶融した樹脂を取り扱う場合には 火傷防止の為、長袖服、長ズボン、帽子を着用し露出部を可能な限りなくして下さい。必要に応じて腕カバーや保護面を使用して下さい。

9. 物理的及び化学的性質

9. 1 基本的な物性的及び化学的性質に関する情報

- (1) 物理的状态 : 丸棒、板状固体物
- (2) 色 : (NC) 淡い茶色、(BK) 黒色
- (3) 臭い : わずかな特有の臭気がある
- (4) 沸点 : 該当しない
- (5) 蒸気圧 : 該当しない
- (6) pH : 該当しない
- (7) 相対ガス密度 : 該当しない
- (8) 動粘性率 : なし
- (9) 融点/凝固点 : 275~285℃
- (10) 比重 : 1.61
- (11) 溶解度 : 水/不溶
- (12) 引火点 : 400℃以上
- (13) 発火点 : 500℃以上
- (14) 分解温度 : 400℃以上
- (15) 爆発下限および爆発上限/可燃限界 : 該当しない
- (16) 可燃性 : なし
- (17) 粉塵爆発性 : 粉塵爆発 爆発限界下限濃度 35 g/m³

9. 2 その他情報

情報なし

10. 安定性及び反応性

- 10. 1 反応性 : 一般的な保管、取扱いでは安定で反応性はありません。
- 10. 2 化学的安定性 : 一般的な保管、取扱いでは安定で反応性はありません。
- 10. 3 危険有害反応可能性 : 一般的な保管、取扱いでは安定で反応性はありません。
- 10. 4 避けるべき条件 : 高温、火気、熱源など。
- 10. 5 混触危険物質 : 特になし
- 10. 6 有害な分解生成物 : 燃焼時、二酸化炭素、一酸化炭素、黒煙、その他刺激性のガスや蒸気などが発生する恐れがあります。

11. 有害性情報

- 11. 1 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 知見なし
- 11. 2 眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性 : 乾燥、溶融時に発生するガスは、眼と皮膚を刺激します。
- 11. 3 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 知見なし
- 11. 4 急性毒性 : 知見なし
- 11. 5 特定標的臓器毒性(単回曝露) : 知見なし
- 11. 6 特定標的臓器毒性(反復曝露) : 知見なし
- 11. 7 発がん性 : 発がん性でGHS区分2に該当する成分を含む。(カーボンブラック)
- 11. 8 生殖細胞変異原性 : 知見なし
- 11. 9 生殖毒性 : 知見なし

11. 10 誤えん有害性 : 知見なし

11. 11 その他の注意事項1 : 粉塵については、OSHA及びACGIHで最大許容濃度、限界値が決められております。

11. 12 その他の注意事項2 :

充填材であるガラス繊維に対する有害性情報は次の通りです。

〈人体への影響〉

(1) 皮膚への影響

ガラス繊維による皮膚への刺激は直径4.5～5 μ m以上の繊維で起こりえること、およびかゆみをとまなう機械的な皮膚への刺激を感じますが、曝露を継続すると消滅することが報告されています。時として、じんましん、および湿疹様の反応によって複雑化された刺激性の皮膚炎をおこすこともあります。一般的に皮膚炎はそれほど重くなく、かつ長期化するものでもないと報告されております。適切な使い方によって皮膚への刺激は防止できます。

(2) 腫瘍性への影響

ガラス繊維は今日までに行われた研究において、ガラス繊維生産労働者の肺がん、または中皮種による死亡率の増加、または症例は報告されておられません。

〈動物実験の報告〉

発がん性は鉱物繊維の成分よりも形状によることが示唆されております。特にアメリカ国立ガン研究所のスタントン博士が行った17種類におよぶ様々なサイズの人口鉱物繊維を用いた実験では、繊維径0.25 μ m以下、長さ8 μ m以上の繊維がガン発生に関係深いことを報告していますが、これは、人為的手段によって大量の繊維を実験動物に投与することに基づいて行われたもので、人間が実際に曝露を受ける状況とは全く異なっているため、これらの実験から得られた結果を元に、人間の健康を害するとの結論を導き出すことには問題があるとされております。また、ガラス繊維が高濃度、長期間の曝露にもかかわらず、肺がんの発生などの作用を明確に示す結果は、現在までのところ得られておられません。

11. 13 その他の注意事項3 :

製品の有害性情報はありませんが、成分であるカーボンブラックの有害性情報を以下に記載します。

固体状の製品としては成分の有害性は顕在化しないと考えますが、切削・研磨等で粉塵が発生する場合は有害性が顕在化しますので、粉塵の発生防止、曝露防止に留意下さい。

[カーボンブラック]

急性毒性

経口 : ラット LD50 15400mg/kg GHS区分外

経皮 : 情報なし

吸入 : 情報なし

皮膚腐食性・刺激性 : 情報なし

生殖細胞変異原性 : 情報なし

発がん性 : IARC (国際がん研究機関) 分類2B ;
人に対して発がん性を示す可能性がある

生殖毒性 : 情報なし

特定標的臓器/全身毒性(単回) : 情報なし

特定標的臓器／全身毒性（反復）：ヒトの塵肺症、及びラット吸入試験でガイダンス値区分1の範囲で肺への影響（上皮の過形成、肺繊維症等）に基づき区分1

吸引性呼吸器有害性：情報なし

11. 14 備考：GHS分類中の有害性記載等に関しては、カーボンブラックの国分類に由来します。

注）『知見なし』とは、一般的に有害性はないと考えられておりますが現時点ではデータ等を持ち合わせていないことを意味します。

12. 環境影響情報

12. 1 残留性、分解性：知見なし
12. 2 生物蓄積性：知見なし
12. 3 生体毒性：知見なし
12. 4 オゾン層への有害性：なし

13. 廃棄上の注意

13. 1 廃棄方法

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（廃掃法）の産業廃棄物、廃プラスチック類に該当します。廃掃法に従って産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体が処理を引き受けている場合は、地方自治体に委託して処理して下さい。

焼却処分する場合は、管理された焼却設備を用いて、廃掃法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法に沿って処理処分して下さい。

14. 輸送上の注意

14. 1 国連分類及び国連番号：該当しない
14. 2 国連出荷名：該当しない
14. 3 輸送時の危険性クラス：該当しない
14. 4 容器等級：該当しない
14. 5 環境有害性：該当しない
14. 6 使用者のための特別予防措置：
直接日光や風雨にさらされないようにカバーをしてください。梱包袋が破れないように乱暴な扱いを避けて下さい。高く積載するときは、荷崩れしないように取扱って下さい。
14. 7 MARPOL 73/78 付属Ⅱおよび IBC Code によるバラ積輸送される液体物質：
該当しない
14. 8 輸送上の国内規制：
陸上輸送、海上輸送、航空輸送ともに該当しない
14. 9 輸送上の安全対策および条件：
製品の破損がないように、投げたり落下させたりする等の乱暴な取扱いは行わないで下さい。高く積載するときは、荷崩れしないように取扱って下さい。また、直射日光や風雨にさらされないようにカバーをして下さい。
14. 10 緊急時応急措置指針番号：該当しない

15. 適用法令

15. 1 廃棄物処理法：産業廃棄物 廃プラスチック類
15. 2 労働安全衛生法：政令第93号 別表第9 130号(カーボンブラック)に該

当します。

15. 3 消防法 : 消防法第9条の4、危険物規制令別表第4 指定可燃物 ;
合成樹脂類 (発泡体以外) ; (指定数量) 3000kg
15. 4 化審法 : 一般化学物質

この製品に関する貴国の規制については、貴社の責任で調査願います。

16. その他の情報

16. 1 最新版改定日と変更箇所

改訂日 : 2025 年 5 月 22 日

改訂項目 : 1, 2, 3, 9, 10, 11, 15 項を改訂

16. 2 責任の限定について :

製品安全データシートは、当該製品を安全に取扱うための参考情報として、当該製品を扱う事業者提供されるものであって、安全を保証するものではありません。ここに記載された数値は、規格値や品質を保証する数値ではありません。この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品 (当該製品) に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。記載内容は当該製品の通常取扱いを前提として作成しています。特別な取扱いについては、用途、用法に応じた安全対策を施してご使用願います。

以 上